

科目名	基礎演習(4) (学科/商)		
担当教員	春田 吉備彦 (ハルタ キビヒコ)	単位数	4単位
開講期間	春学期/秋学期	授業形態	演習
使用言語	日本語	開講学年	1年次のみ
開講学科・カリキュラムコード※	商SS1		
資格科目			
授業概要	<p>基礎演習では、大学4年間を過ごしていくうえで、必要になる基礎知識を習得することを目的とする。</p> <p>私たちがこれから学ぼうとする、「商学」「経営学」「会計学」は、いずれも、社会科学を学ぶ上で、最低限、必要な基礎知識(基礎学力)というものがある。このためには、熊本学園大学図書館に所蔵されている、多様な基礎的文献を大学生生活の4年間で読みこなし、その内容を他者に伝えられる発表能力が必要である。なお、この点、将来的には、卒業論文を書くことになるので自ずとこのような作業は行う必要がある。</p> <p>また、必要になる基礎知識としては、例えば、定期試験の解答あるいはレポートを作成する際の論点や文献リサーチ能力、形式を踏んだ文章の作成能力、演習クラスにおけるレジュメの作り方・発表方法・質疑応答能力、何か学生生活において困った場合の担当教員等に対するメール等の連絡方法やそのための基本的な礼儀作法等である。</p> <p>そこで、基礎演習では、前期においては、「読み・書き・発表」にかかわる基礎的な能力を養い、後期においては、学術的文章を具体的に、受講生全員で読んでいきながら、その内容について報告し、議論することにする。</p>		
到達目標	<p>教科書の読み方やノートの取り方、演習での発表の仕方等、学びの技法が身につく。</p> <p>指導教員や基礎演習仲間とのやり取りを通じて、コミュニケーション能力が向上する。</p> <p>新聞や専門書を含めた特価威力が向上する。</p>		

カリキュラム学科 2025年度 春学期 学部 商学部 商

商学科DP		関与度
1	企業をはじめとする組織の諸活動について、その活動の運営・管理や維持・発展について考察するために必要となる知識や理論を習得している。	
2	企業をはじめとする組織の諸活動について、その社会的貢献や責任、歴史や環境等と関連づけて理解したり、文化的多様性の存在を理解したりする能力を身につけている。	
3	柔軟な適応力や総合的な判断力、確かな実践力を身につけ、高いコミュニケーション能力を有して他者と協働することができる。	◎
4	企業をはじめとする組織の諸活動について、問題を発見し、その解決に必要な多様な情報を収集・分析することができる。さらに、一定の根拠に基づき、複眼的・論理的に思考することによって、説得力のある分析や解決策を提案できる。	○
5	知的好奇心、協調性やリーダーシップ、自己管理能力などを兼ね備え、生涯を通じて自律的に学び続けることができる。	△

授業内容	
第1回	ガイダンス、自己紹介および基礎演習の目標やルールの確認
第2回	大学生生活のあり方
第3回	授業中のノートの取り方
第4回	教科書の読み方、学問的な文章とは？
第5回	教科書の読み方、学問的な文章を読むためのコツ
第6回	レポートや定期試験答案の書き方、感想文とレポートはどう違う？
第7回	レポートや定期試験答案の書き方、実際例を検討する
第8回	パソコン・スキル(ExcelとWord)
第9回	パソコン・スキル(Power Point)
第10回	基礎演習における報告資料の探し方

第11回	大学図書館の使い方
第12回	基礎演習発表の準備の仕方
第13回	基礎演習発表の実際例、皆でやってみよう!
第14回	大学の試験と評価について
第15回	前半のまとめと振り返り
第16回	後半のガイダンス
第17回	「マネーの進化」第1章「一攫千金の夢」
第18回	「マネーの進化」第2章「人間と債券の絆」
第19回	「マネーの進化」第3章「バブルと戯れて」
第20回	「マネーの進化」第4章「リスクの逆襲」
第21回	「マネーの進化」第5章「わが家ほど安全なところはない」
第22回	「マネーの進化」第6章「帝国からチャイメリカへ」
第23回	「マネーの進化」第7章「マネーの系譜と退歩」
第24回	「それをお金で買えますか 市場主義の限界」序章「市場と道徳」
第25回	「それをお金で買えますか 市場主義の限界」第1章「たがいに負うものは何か?—忠誠のジレンマ」
第26回	「それをお金で買えますか 市場主義の限界」第2章「インセンティブ」
第27回	「それをお金で買えますか 市場主義の限界」第3章「いかにして市場は道徳を締め出すか」
第28回	「それをお金で買えますか 市場主義の限界」第4章「生と死を扱う市場」
第29回	「それをお金で買えますか 市場主義の限界」第5章「命名権」
第30回	1年間を通したまとめ
事前事後学修(具体的な内容及び必要な時間)	<p>(事前学習)1時間程度必要です。 講義の2日前にはレジュメをmanabaにアップします。レジュメは教科書と対応しています。事前にダウンロードして、事前学習を行ったうえ、授業に臨んでください。</p> <p>(事後学習)3時間必要です。 (1)講義で学んだ知識は時間が経つにつれて希薄化します。講義が終わったら、その日のうちに教科書やレジュメを読み直し、分からないところを確認してください。次週の講義、質問時間を取ります。 (2)復習に資するように、manabaを通じて、追加資料を配布し講義にかかわるレポートを課します。講義にかかわるレポートについて、必ず、manabaをご参照ください。</p>
試験や課題に対するフィードバック方法	<p>基礎演習においては、それぞれの検討対象の題材について、順番に報告者を指名します。報告後の受講生相互での質疑応答を踏まえてレポート課題を課します。その後、模範解答を提示します。その際に、評価基準について明確にしていきます。また、そもそも、大学のレポートや論文の書き方は、専門的な形式があります。このような専門的な書き方についても、事前に指導し、それが反映されているか否かについても、チェックして、受講生各自のレポート課題への解答に対して、事後的な指導の機会も設けます。</p>
アクティブ・ラーニング	PBL (課題解決型学修) /プレゼンテーション/ディスカッション、ディベート/グループワーク
実務経験を生かした具体的な授業内容	
学修支援システムLMS (manaba) の活用	manabaに講義資料・コンテンツの公開/その他manabaの機能の活用
受講上の注意点	出席率は重視するので、10回以上は出席すること。
教科書	ニール・ファーガソン「マネーの進化史」(早川書房) マイケル・サンデル「それをお金で買えますか 市場主義の限界」(早川書房)
参考文献	特に指定しない。
成績評価方法	
評価割合	

A.定期試験		0%
B.レポート		20%
C.小テスト		0%
D.発表(プレゼン・スピーチ等)		20%
E.平常点・授業への貢献度		60%
F.その他		0%
成績評価についての補足	特にありません。	
担当教員との連絡方法	大学アカウントのEメール (@kumagakuのアドレス)	
連絡方法 (その他)	熊本学園大学の私のメールアドレスに連絡してください。	
添付ファイル		

※カリキュラムコードは、各学科の群 (分野)、必修か選択、開設学年を示しています。詳細は履修登録ガイドを参照してください。